鎌倉市立第一小学校改築工事基本構想

子どもが主役の学校づくり

地域と先生の月光のような愛情に包まれ、一人ひとりの学びがキラキラ輝く

令和８年（2026 年）３月

鎌倉市教育委員会

鎌倉市立第一小学校改築工事基本構想

鎌倉市教育委員会

目　次

１　基本構想の背景　・・・　1

２　第一小学校の概要　・・・　2

３　基本構想の位置付け　・・・　7

４　第一小学校づくりのビジョンとコンセプト　・・・　11

５　５つのコンセプト　・・・　12

６　複合化の検討　・・・　20

７　基本計画の検討課題　・・・　21

参考　意見要望の整理　・・・　23

1　基本構想の背景

（１）改築に至る経緯

令和６年（2024 年）３月に策定された「鎌倉市学校整備計画」に基づき、令和６年度（2024 年度）に学校施設整備の優先順位を検討した結果、施設の老朽化の状況や津波浸水想定区域内に立地しているという災害リスクを踏まえ、令和７年度（2025 年度）から鎌倉市立第一小学校の全面改築に向けた基本構想の策定に着手することとなりました。

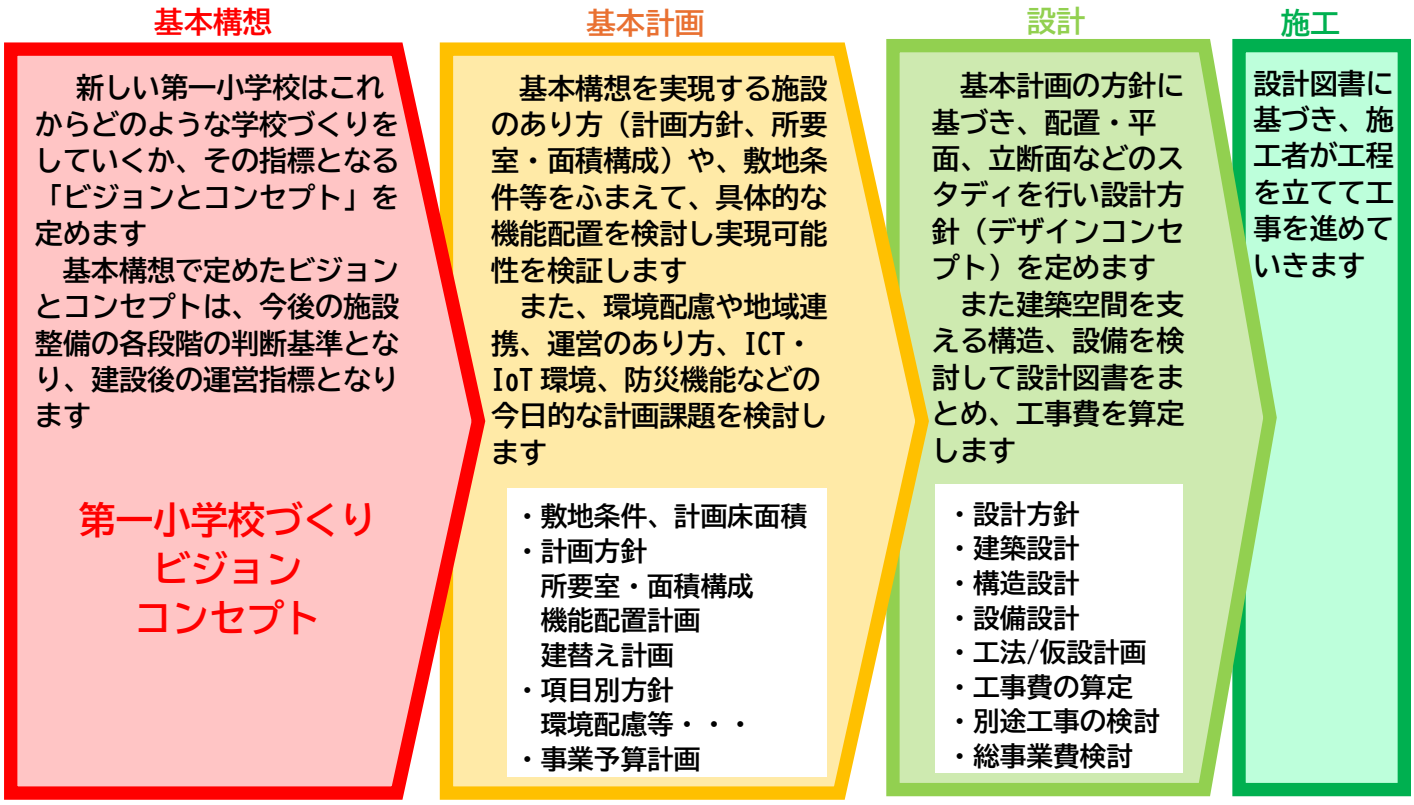
現在の校舎は昭和 40 年（1965 年）に火災で全焼後、昭和 41 年（1966 年）に再建されました。整備から約 60 年が経過し、建物や設備の老朽化への対応が大きな課題となっています。また、津波浸水想定区域内にあることから、改築にあたっては、津波発生時の避難場所として安全に避難できる施設とすることが求められています。

（２）基本構想の目的

基本構想は、「第一小学校づくりのビジョンとコンセプト」を定め、新しい第一小学校がこれからどのような学校づくりを目指していくかを示すことが目的です。

（３）施設整備のステップ

今後、基本構想、基本計画、設計、施工というステップで施設整備を進めていきます。基本構想で定めた第一小学校づくりのビジョンとコンセプトは、各ステップにおける検討の際の判断基準となります。



２　第一小学校の概要

鎌倉市立第一小学校は、明治 26 年（1893 年）に尋常由井浜小学校として開校し、令和８年（2026 年）で 133 年目を迎えました。若宮大路と車大路に面した位置にあり、市内で歴史がある小学校のひとつです。

（１）沿革

明治 38 年（1905 年）に現在地へ移転し鎌倉小学校と改称しました。大正 14 年（1925 年）に木造の旧校舎（写真）が完成しましたが、鎌倉市立第一小学校と改称されたのは昭和 22 年（1947 年）となります。

昭和 40 年（1965 年）に火災で旧校舎が焼失し、昭和 41 年（1966 年）の再建以降、昭和 54 年（1979 年）までに４期にわたる改築・増築工事が行われ、現在の校舎と体育館が完成しました。昭和 48 年（1973 年）には鎌倉体育館開設による敷地分割、令和元年（2019 年）の「かまくらっ子だいいち」開設に伴う敷地分割により移転時より校地環境は変化しています。

平成 26 年（2014 年）には津波避難対策として屋上外階段等を整備し防災機能を強化しています。

旧校舎

現校舎

（２）児童数・学級数

令和７年（2025 年）５月１日現在の児童数・学級数を示します。

学年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	星の子	合計
学級数	3	3	3	4	4	4	3	24（3）
男子	54	33	54	61	66	56	10	334
女子	43	53	47	48	63	52	4	310
計	97	86	101	109	129	108	14	644

※星の子：特別支援学級　知的障がい１学級５人、情緒障がい２学級９人　弱視は在籍なし

※学級数の（　）内は特別支援学級数（内数）

児童数推移

年度	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26
児童数	622	651	692	717	747	764	814	828	813	791	770
学級数	20(2)	22(2)	22(2)	24(2)	26(2)	26(2)	27(2)	27(2)	29(3)	29(4)	28(4)

年度	平成27	平成28	平成29	平成30	平成31	令和２	令和３	令和４	令和５	令和６	令和７
児童数	787	748	733	755	759	741	748	725	702	661	644
学級数	28(4)	27(4)	25(3)	26(3)	26(2)	25(2)	26(2)	26(2)	24(3)	25(3)	24(3)

※学級数の（　）内は特別支援学級数（内数）

（３）教職員数

令和７年（2025 年）５月１日現在の教職員数を示します。

校長１・教頭１・通常学級担任 24・特別支援学級担任３・児童支援専任１・専科５
TT 指導２・まなびばサポーター１・養護教諭１・拠点校指導教員１・事務２・栄養士１
スクールアシスタント１・学級介助員４・ALT１・図書館専門員１・教頭マネジメント支援員１
学校技能員３・教育相談１・スクールカウンセラー１・スクールサポートスタッフ３・警備員１

（４）教育目標

令和７年度（2025 年度）グランドデザインに示された学校教育目標は以下の通りです。

学校教育目標

自ら光る星になれ　つよくやさしい月になれ

めざす学校像

確かな学びがある学校（わかる授業・学び合う授業）
一人ひとりが大切にされ、豊かで健やかな心身を育む学校
子どもの成長を支える学校
地域に開かれた地域と共にある学校

めざす子ども像

考え、行動できる子
自他ともに大切に、互いを認め合える子
元気に挨拶、笑顔あかるい子

めざす教師像

教師として高い自覚と使命感
豊かな人間性と社会性
確かな児童理解と指導力

（５）施設等

所 在 地　鎌倉市由比ガ浜二丁目９番 55 号

敷地面積　15,616 ㎡（建物用地 9,832 ㎡　運動場 5,784 ㎡）　※令和７年度（2025 年度）施設台帳より

既存施設　校舎 7,358 ㎡（４階建て）給食調理場 232 ㎡（校舎内）体育館 838 ㎡（平屋建て）

用途地域　第１種住居地域、一部第２種住居地域（若宮大路より 30m の範囲内）

建 蔽 率　60％

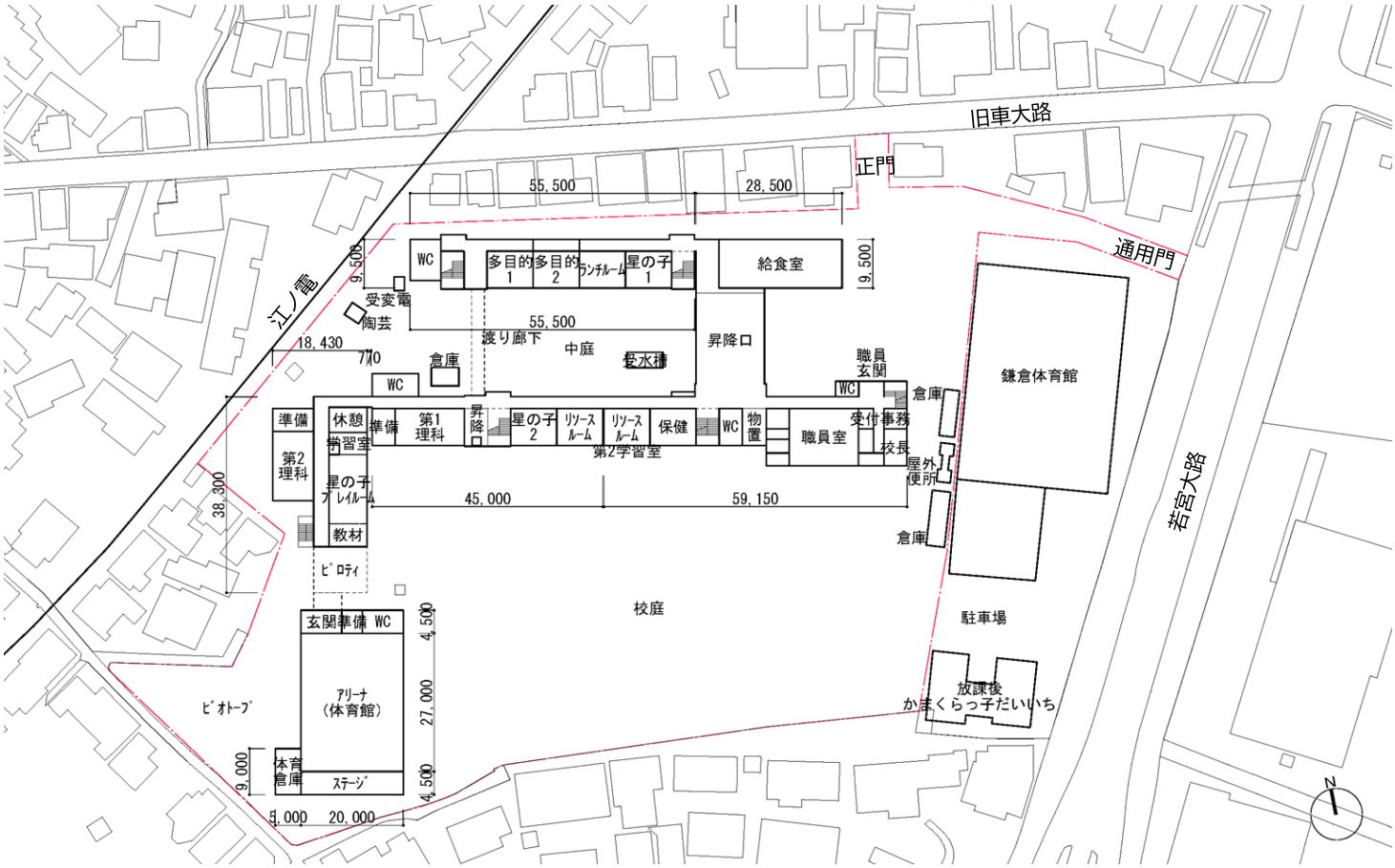
容 積 率　200％

日影規制　５時間（５～10m）－３時間（10m 超）、測定面４ｍ　※高さが 10m を超える建物が対象

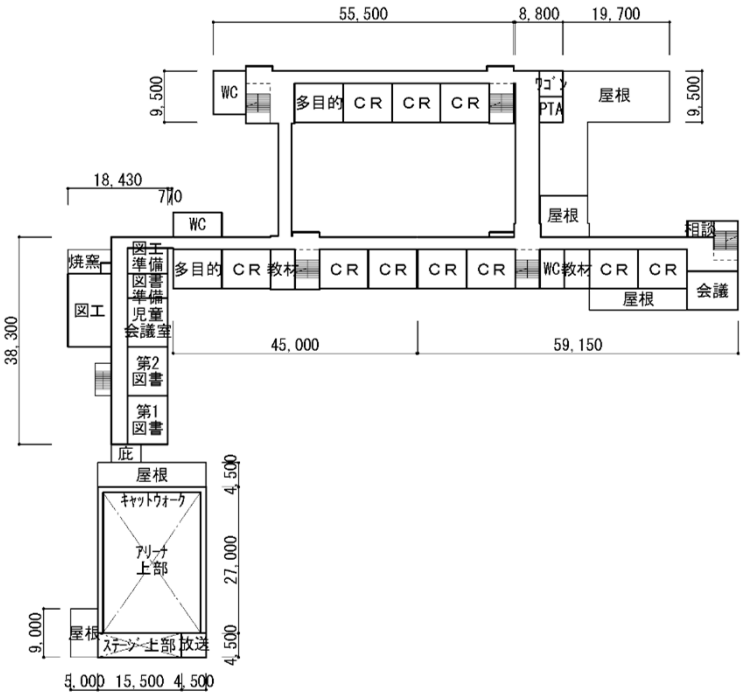
防火地域　準防火地域

そ の 他　鎌倉景観地区　建築物高さの最高限度指定 15m

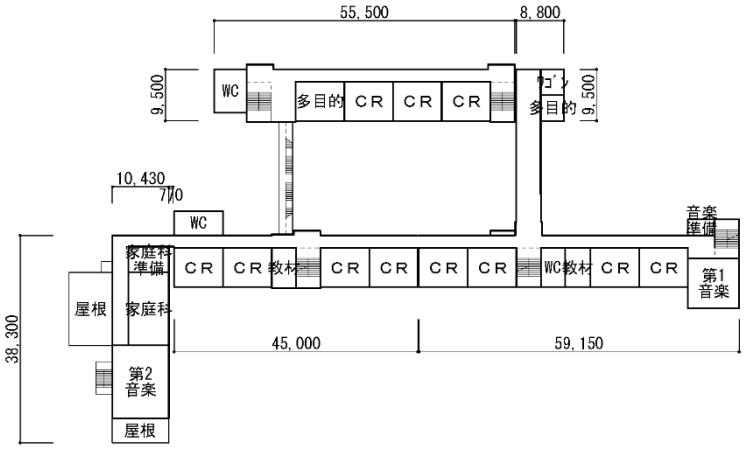
津波浸水想定区域内



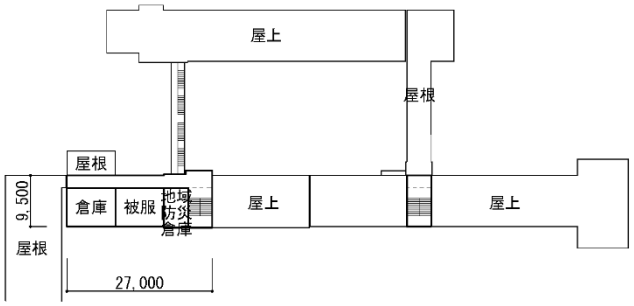
配置図・１階平面図



２階平面図



３階平面図



４階平面図

（６）津波リスク

鎌倉市津波ハザードマップ（令和２年（2020 年））によると、第一小学校は津波浸水想定区域内（相模トラフ沿いの海溝型地震（西側モデル））にあり、浸水深は 0.5m～3.0m 未満（１階部分まで浸水のおそれ）の区域に位置しています。

これらの状況を踏まえ、新しい学校施設は地域の防災・減災機能の強化に資する津波避難ビルとして整備することが重要であり、計画する建物については、命を守るために十分な高さや階層の検討などが必要です。

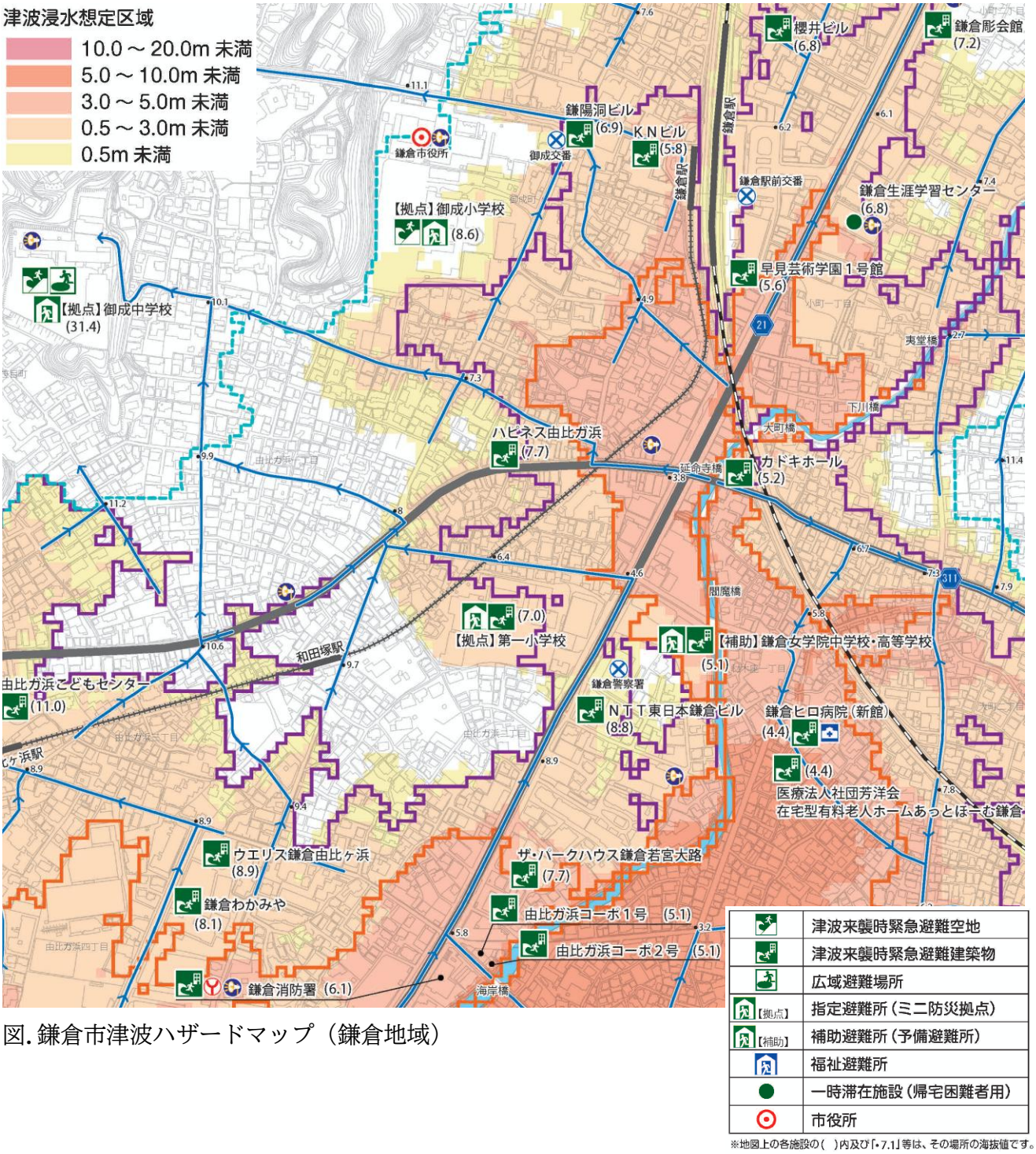


図.鎌倉市津波ハザードマップ（鎌倉地域）

３　基本構想の位置付け

教育大綱、教育振興基本計画、学校整備計画の概要を整理します。「第一小学校づくりのビジョンとコンセプト」はこれらの指針・計画を踏まえて設定しました。

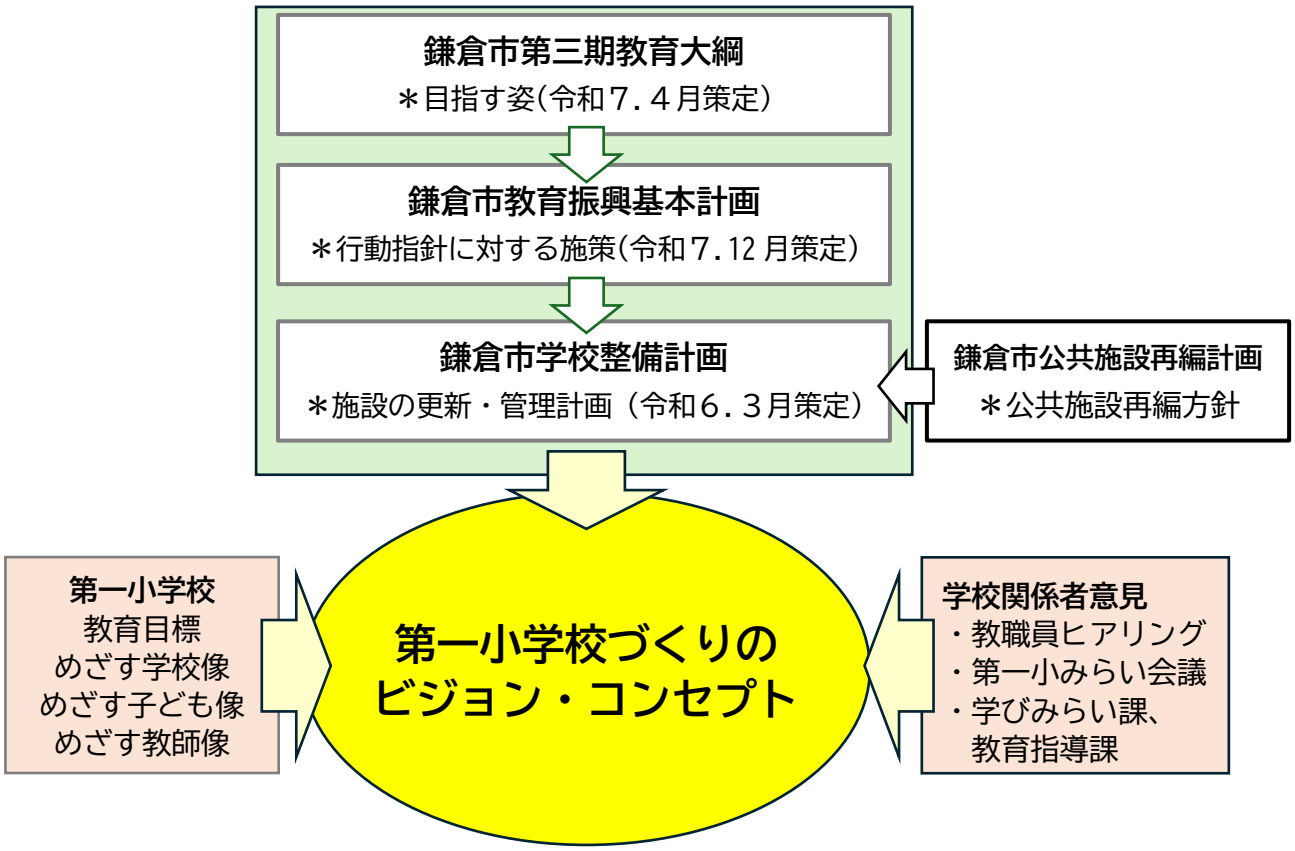


図. 鎌倉市立第一小学校 改築工事基本構想

（１）鎌倉市第三期教育大綱（令和７年（2025 年）４月）

新しい教育大綱が令和７年度（2025 年度）より運用されています。第三期教育大綱は令和 11 年度（2029 年度）までの５年間を期間とするものですが、今後の鎌倉市における教育のあり方を示す内容となっています。そのため、教育大綱に掲げられた目指す姿（ビジョン）と行動指針（コンセプト）は、第一小学校の改築においても上位の理念となります。

目指す姿（ビジョン）

“炭火”のごとく誰もが学びの火を灯し続け、
生涯にわたり心豊かに生きられるまち鎌倉

「炭火」に込められた想い
多様性　　持続性　　伝播性

行動指針（コンセプト）

“学習者”を中心に据えながら、①ワクワク②地域の宝物③共生社会④環境整備の４つを政策の柱として位置付け、“炭火”というビジョン実現に取り組んでまいります

（２）鎌倉市教育振興基本計画（令和７年（2025 年）12 月策定）

第三期教育大綱で示された目指す姿（ビジョン）と行動指針（コンセプト）を実現するために、教育振興基本計画で具体的な政策を策定しています。教育大綱に示された４本の政策の柱ごとに、政策の方向性や個別施策を詳述しています。なお、第一小学校の改築は、主に「④学習者中心の学びを支える環境を整備する」の重点プロジェクトのうち「B 安心安全で豊かな学校教育環境の整備」の一つとなります。

①ワクワクして未来を創る学びを生み出す

<u>重点プロジェクト</u>

A 新たな時代に対応した学びの実現　　B デジタル技術による学びの転換
C “学習者中心”の学びへ挑戦支援

②地域の宝物を活かし、生涯かけて学ぶ機会をつくる

重点プロジェクト

A 地域と学校の連携推進　　B 生涯学習・体験学習の機会充実

C 歴史・文化の保存・継承・活用

③多様性を尊重した学びで共生社会を共創する

重点プロジェクト

A こどもたちの学びの多様化推進　　B インクルーシブ教育の実現

C 子育て・子育ちの環境整備

④学習者中心の学びを支える環境を整備する

重点プロジェクト

A 学校の指導・運営体制の充実　　B 安心安全で豊かな学校教育環境の整備

C 地域における生涯学習基盤の整備

（３）鎌倉市学校整備計画（令和６年（2024 年）３月策定）

鎌倉市の小中学校は昭和 40 年代から 50 年代に建築した建物が多く、老朽化が進行しているといった学校施設の現状と課題を踏まえ、学校施設の建替えや長寿命化改修、大規模改造等の再整備手法や整備スケジュール等について示しています。

学校施設整備に向けた基本的考え方が以下の７項目にまとめられています。

１）安全で児童・生徒に安心感を与える施設

地震・津波・洪水などの自然災害から児童・生徒の命を守る強固な学校施設であると同時に、施設や設備の損傷を最小限にとどめ、被災後の教育活動の早期再開を可能とする施設とします。また、児童・生徒の多様な活動を想定した安全対策や十分な防犯対策を施し、事故を未然に防ぐことができるよう配慮します。

２）快適で温かみのある生活の場

児童・生徒の社会性・人間性を育む場として、ゆとりと潤いのある快適な空間を目指し、落ち着いた雰囲気の中でコミュニケーションや休憩をとることができるラウンジ機能を配置し、自主的・自発的な学びや交流を生み出す工夫を行います。また、全ての児童・生徒、教職員等、その他来校者が安全かつ円滑に学校施設を利用できるよう、必要なスロープ、手すり、エレベーター等、バリアフリーの施設として整備します。さらに、教職員等の働く場として、効果的な機能性を持ち、事務負担軽減にも寄与できる環境づくりにも配慮します。

３）柔軟で創造的な学習空間の創出

将来的な児童・生徒数の変化、学級数の変動、学習内容・学習形態等の変化に対応できるよう、建物の全面改修を容易にする構造躯体と内装、設備類を分離した「スケルトン・インフィル」を導入し、内部の間仕切りや設備機材は用途に応じて自由に変更が可能な工法とします。また、デジタル化の進展の中で、学校図書館が読書・学習・情報センターとしての機能を十分に果たすことができるようにするとともに、主体的な学習活動を支援する場として、学習環境の高機能化・多機能化を含めた図書館のラーニング・コモンズ化を検討します。

４）学びの多様化への対応

社会構造の急激な変化や価値観の多様化を反映して、児童・生徒をとりまく生活環境は大きく変化し、教育課題も複雑化しています。このため、カリキュラム・マネジメントの実現や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、インクルーシブな学校づくり、ICTの活用、不登校の未然防止といった多様な学びに対応できる学校施設とします。

５）SDGs 未来都市として児童・生徒の環境教育につながる持続可能な取組

緑豊かな学校環境を創出するとともに、屋根・外壁の高断熱化や高効率照明の導入による省エネ化、太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入など、脱炭素社会への取組を進めながら、児童・生徒の環境教育へとつなげるものとします。また、できる限り木材を利用した空間を整備することで、健康面・学習面での効果ばかりでなく、環境負荷への低減や、鎌倉らしさを醸し出す施設デザインにもつなげます。

６）学校と地域が支え合う共創空間の創出

保護者や地域住民等が学校運営や教育活動を支援する取組として、地域と学校とが連携・協働して創造的な活動を企画・立案・展開していくために必要な共創空間を創出します。なお、学校施設の複合化については、学校更新時の建築的余裕や地域性を鑑み、多様な「知」が集積し、新しい価値を育む施設、多様な世代との交流や地域コミュニティの強化につながる施設として、学校ごとに機能等の検討を行います。

７）鎌倉市にふさわしい適正規模と適正配置

学校教育においては、児童・生徒が集団の中で多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくことが重要であり、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望まれます。しかし、少子化の進行が中長期的に見込まれる中、適正規模を単に児童・生徒数及びクラス数の増減によって機械的に判断するのではなく、地域の実情に応じた活力ある学校づくりに向け、学校が持つ多様な機能にも留意しながら、総合的に判断するものとします。

4　第一小学校づくりのビジョンとコンセプト

教育大綱や学校整備計画に示されている理念、基本方針と、第一小みらい会議や教職員ヒアリングを通して得られた児童や保護者、地域、教職員の想いを参考として、改築を契機とした第一小学校づくりのビジョンとコンセプトを定めます。ビジョンとコンセプトは、基本計画、設計、建設と続くプロセスを通して、施設のあり方とデザインを決める際の判断基準となるものです。施設が完成した後は、ビジョンとコンセプトを具現化した建物であることを利用者に伝え、運営の指標にしていきます。

第一小学校づくりのビジョンと５つのコンセプト

「子どもが主役の学校づくり　―地域と先生の月光のような愛情に包まれ、一人ひとりの学びがキラキラ輝く―」をビジョンとします。ビジョンの土台には「共生」があります。

ビジョンは「学習者中心」「協働」「多様性の包摂」「安全・安心」「継承と創造」の５つのコンセプトにより実現の方向性を定めます。

旧鎌倉町の町章を受け継いだ第一小学校の校章「星月」にビジョンを重ね、５つのコンセプトは方向性を表すコンパスに見立てて表現しました。

５　５つのコンセプト

５つのコンセプトに込められた考え方とそれを実現するイメージスケッチを例示します。

※イメージスケッチはコンセプトを具現化した場合の例であり、具体的な検討は令和８年度（2026 年度）以降の基本計画や設計の中で行うものとなります。

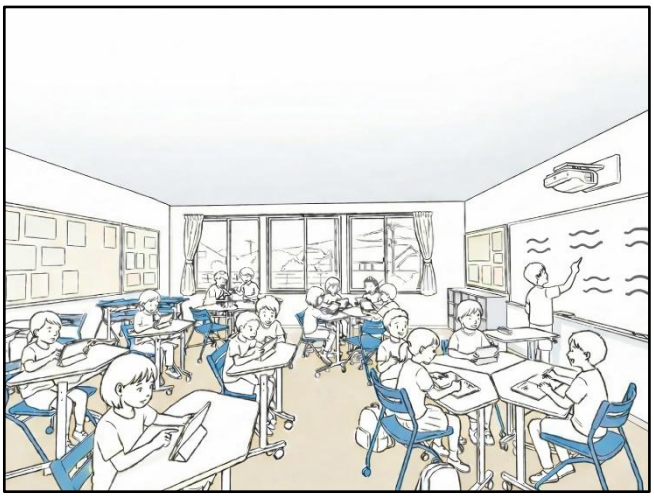
（１）学習者中心　子どもが自らハンドルを握りながら学びを展開できる環境

何を学ぶか、どのように学ぶか、どこで学ぶか、誰と学ぶかを、学習者が自ら考え、選び取っていくような、学習者中心の学びができる環境を目指します。

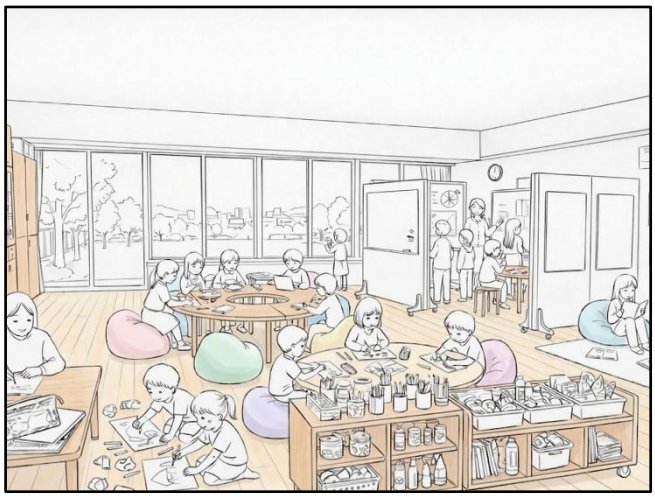
授業の場面だけではなく、休み時間や放課後の時間にも学びがあるような、挑戦心や探究心を育める環境を整えます。

「子ども」だけでなく「大人」も学習者であるという前提に立ち、子どもも大人も、多様な学びを生み出せる環境をつくります。

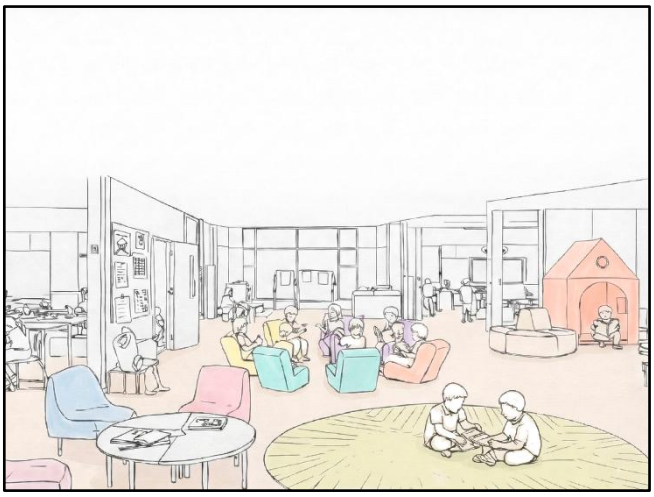
イメージスケッチ



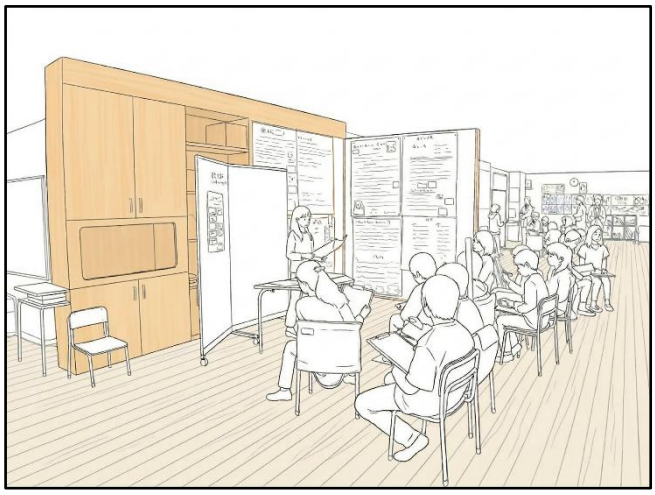
活動の自由度が増す教室
ICT 環境を整え、グループ形式が作りやすい移動式家具により柔軟な教育活動が展開できる



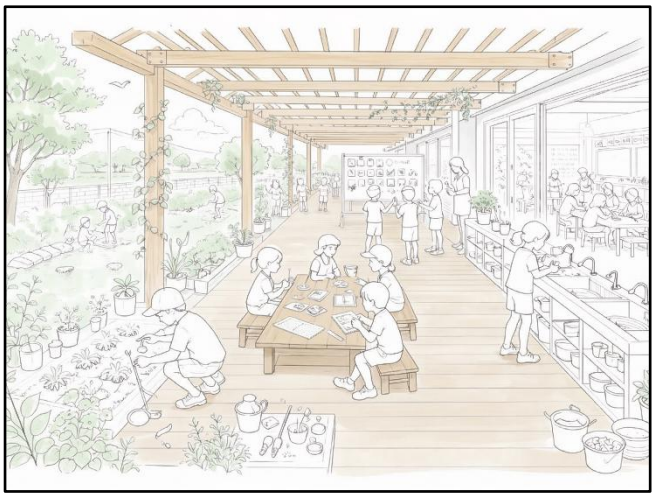
「ワクワク」を引き出すオープンスペース
魅力的な学びの材料に日常的に触れる等、子どもたちの興味・関心を引き出すスペース



オープンスペースと教室の一体的整備
一斉、個別・グループ学習、発表、振り返り、リフレッシュなどが学年単位で展開できる

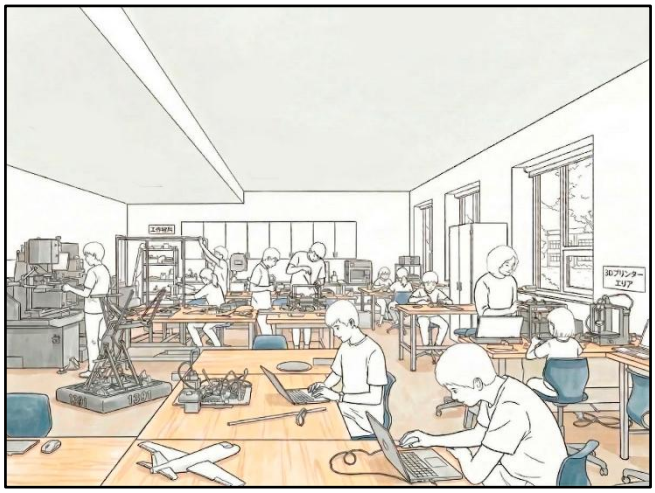


活動の手がかりがあるオープンスペース
可動パネルを開けば、グループ発表が直ぐにできる



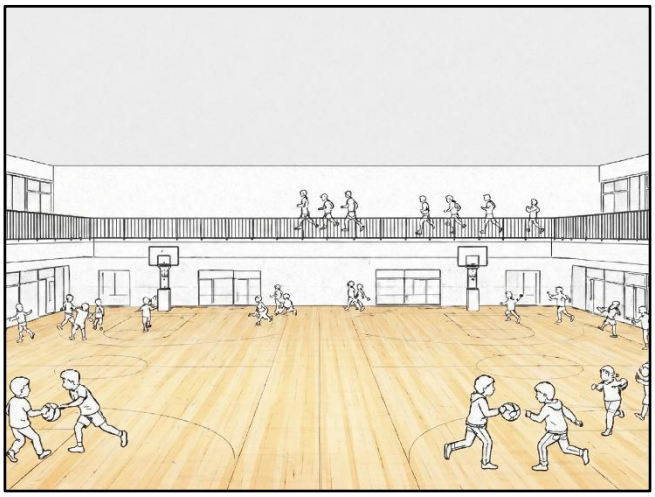
教室空間と連続する半屋外テラス
動植物などいきいきとした学習材にいつでも触れられる、観察できる

探究する場となる理科室
科学の世界を体感し、子どもたちの意欲と創意工夫を引き出す



最新の技術で創作活動ができる FAB ラボ
デジタルとロボティクスを組み合わせ、体験を通してプログラミングを学ぶ

いろいろな運動に挑戦できるアリーナ
球技、器械運動、ダンスなどさまざまな競技、運動に親しめ、挑戦心を掻き立てる



体力づくりができるアリーナ
ボール遊び、ゲーム遊び、ランニングなどが、のびのびできる

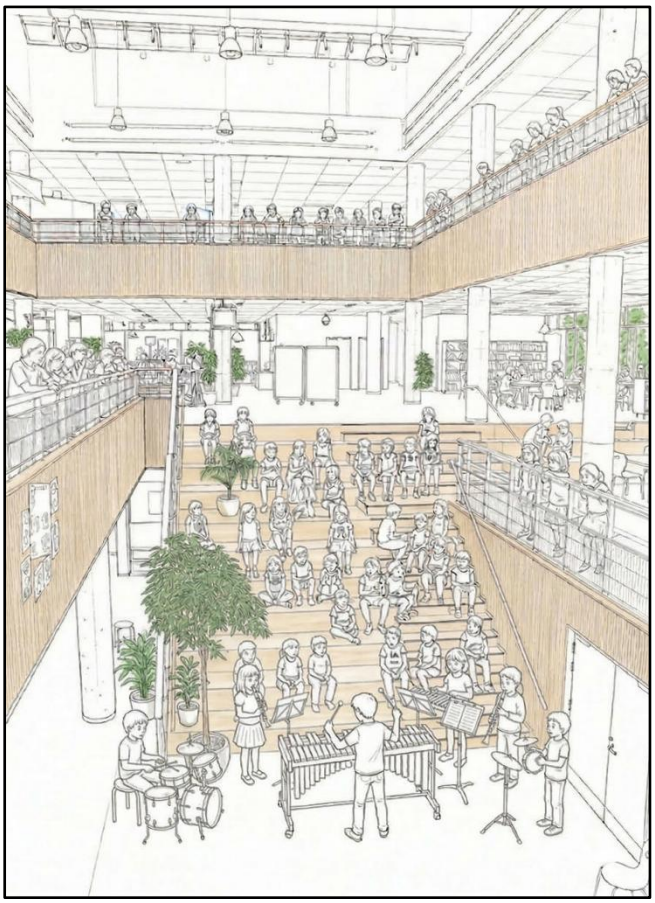
（２）**<u>協働</u>　世代や立場を超えて、つながりを育む協働空間**

隣の席の友達や、同じクラス・学年の仲間はもちろん、他学年や保護者・地域の方々とも協働しながら、教科横断的で多様な学びを生み出すことのできる環境を目指します。

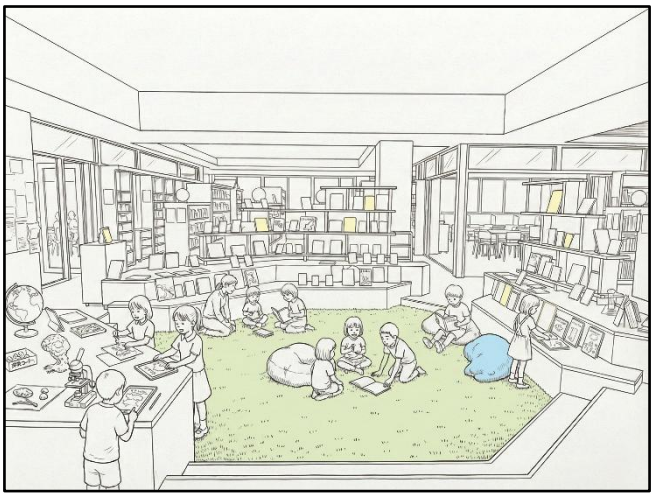
子どもたちの学びの環境をつくるため、教職員間の連携や、学校と保護者・地域との協働など、立場を超えたコラボレーションを生み出せる環境をつくります。

地域と学校が日常的につながり、学校が地域の方々にとって居心地のよい居場所となるように、世代を超えた交流活動が自然と生まれる共創空間を目指します。

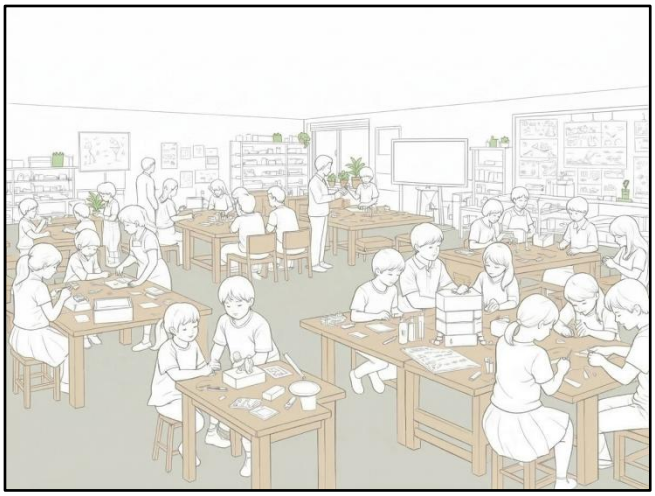
イメージスケッチ



みんなと出会う交流ホール
学年の活動を他学年が見たり、学年を超えた活動ができたりする



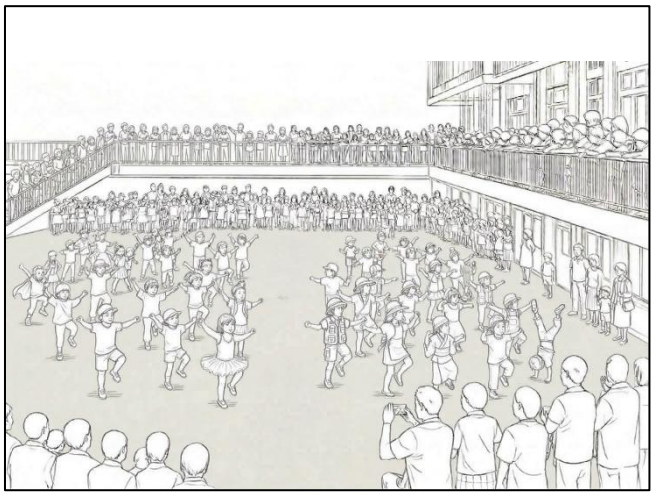
交流の場となる図書空間
いつでも入れるオープンな場所で、リラックスして読書に親しめる、学年を超えて交流できる



教科を超えた創作活動ができる工房
教科の枠組みに縛られず、アートやデザインに取り組める

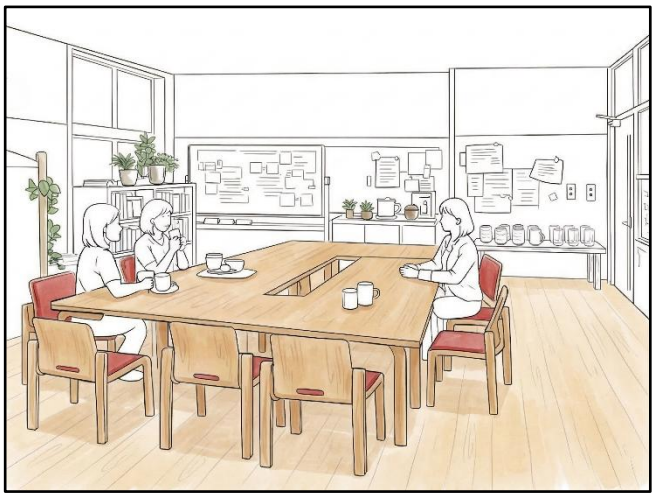
先生同士の協働性が高まる職員室
フォーマルな場所とインフォーマルな場所を組み合わせ、オンオフを切り替えられる

先生に気軽に相談できる職員室
中の様子が見える開放的な空間で、先生に気軽に声掛けして話ができる

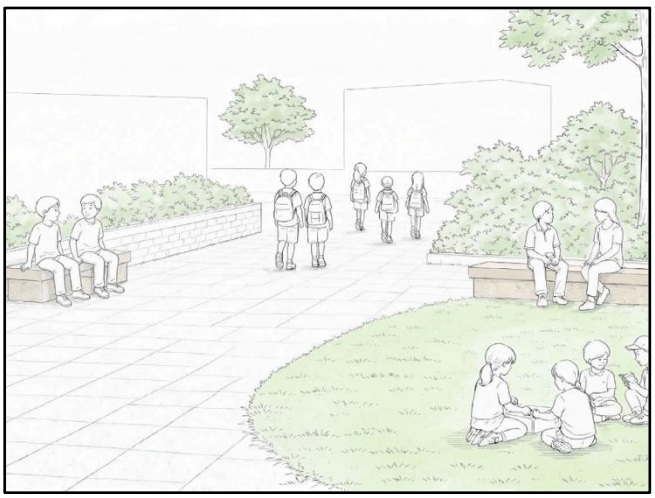


地域合同のイベントの場となる校庭
多くの人が参加する地域ぐるみのイベント会場として活用できる

地域住民も寛げる交流ラウンジ
学校づくりに関わる地域の大人たちや先生が寛ぎながら、教育活動を語り合う



保護者と先生の連携が高まる PTA ルーム
開放的で居心地の良い部屋で相談や打合せ、資料の作成ができる



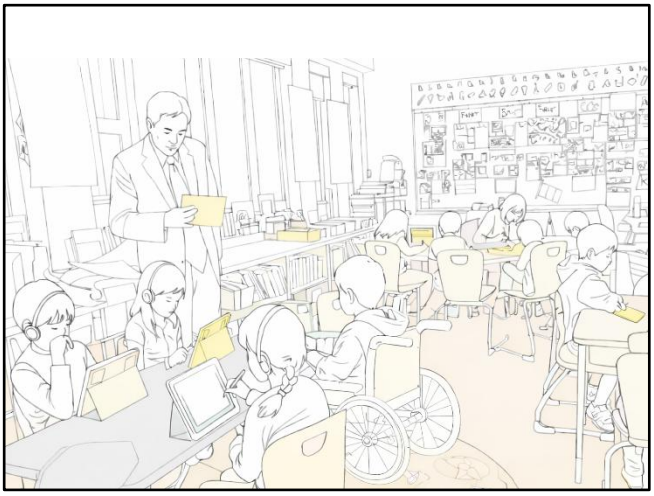
みんなが集える前庭・ひろば
地域に開かれて誰もが寛げる

（３）**多様性の包摂**　**一人ひとりが包摂され、自分らしく過ごせる環境**

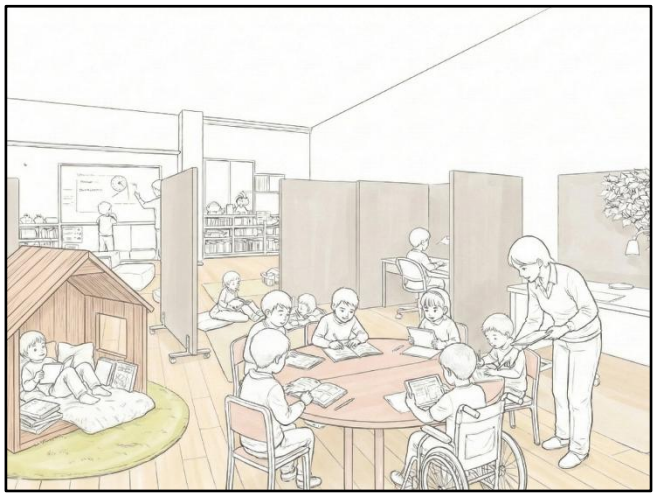
一人ひとりの特性や興味・関心が尊重され、こどもも大人も、誰一人取り残されることなく包摂される学校を目指します。「少し一人になりたいな」「静かな環境で過ごしたいな」といった子どもたちの困り感にも寄り添い、学び方や居場所が選べるような環境をつくります。

障がいは子どもではなく「社会」にあるのであり、一人ひとりが物理的にも心理的にも安心して過ごせるように、バリアフリーな教育環境を目指します。

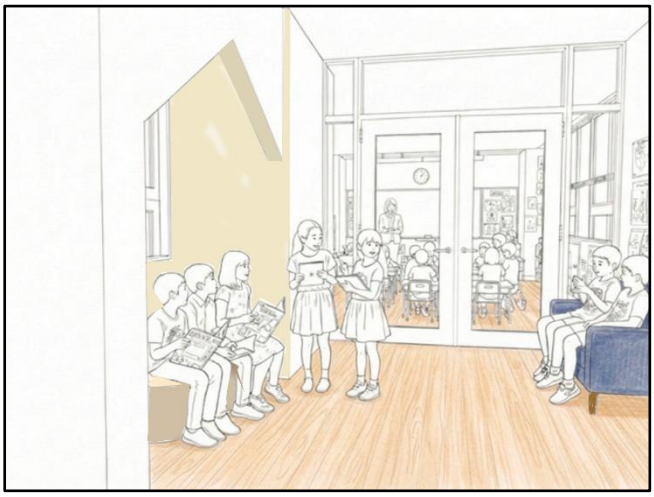
イメージスケッチ



学び方が選べる学習空間
異なる方法で学べる場所の工夫を行い、自分に合った学び方に出会える



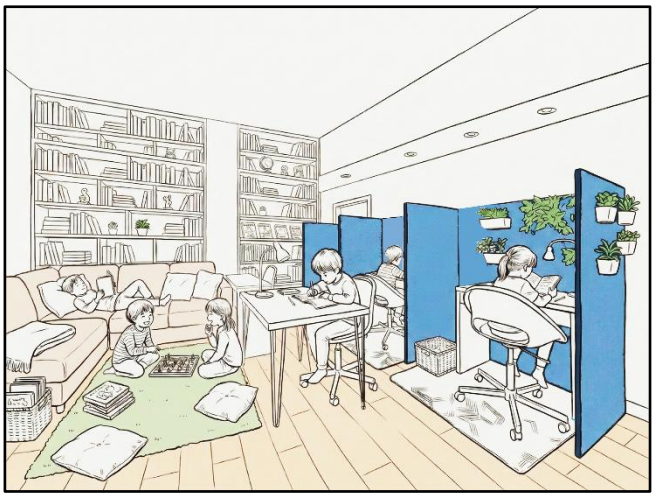
色々なコーナーがある特別支援学級
子どもたちの状況に応じて活動場所が選べる



気分転換が図れる小空間
教室まわりにデン（洞穴）やアルコーブ（くぼみ）と呼ばれる小空間で気分転換できる

ほっと一息付けるトイレ
清潔、快適で、落ち着く空間

子どもの気持ちに寄り添う保健室と相談室
配慮が必要な子どもが他の子どもの視線を気にせず相談したり過ごせたりできる



集中したり寛いだりできる場所
集中して課題に取り組むことできるし、寛いだり遊んだりもできる

一緒に移動できる動線
誰もが利用しやすい廊下やスロープ、出入口がある

バリアフリーで明るい玄関ホール
ゆとりがあり、開放的で物理的・心理的バリアのない玄関が、明るくみんなを迎える

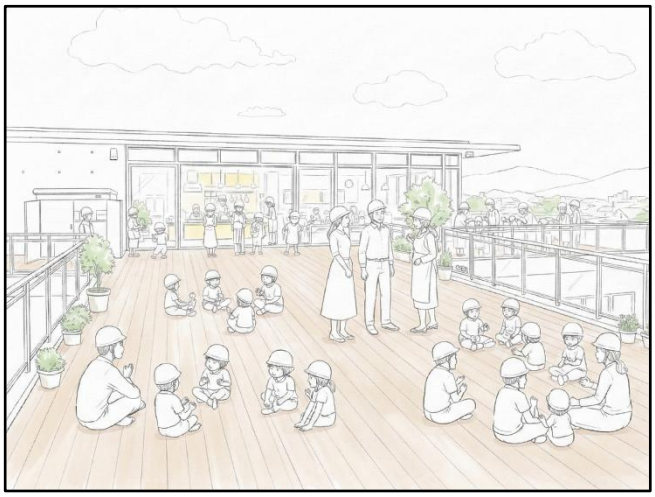
落ち着いて過ごせるカウンセリングルーム
　子どもたちが入りやすく、気持ちを落ち着けてカウンセラーに相談できる

（4）**<u>安全・安心</u>　子どもも大人も心地よく過ごせる安全・安心な居場所**

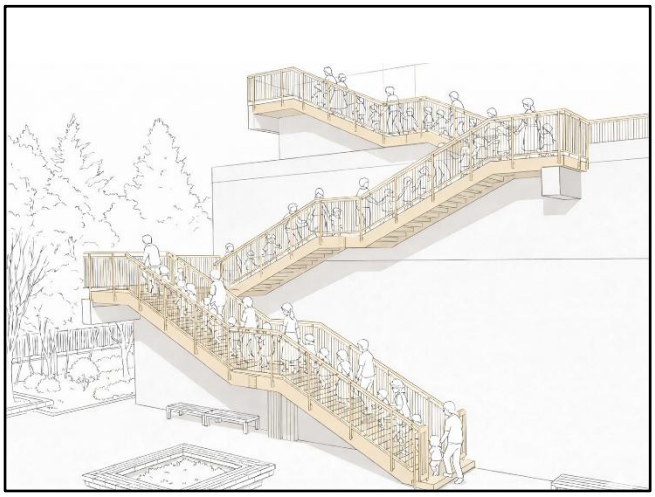
新しい学校施設は地域の防災拠点としての役割が期待されています。そのために必要な機能を用意し、地域の安心を支える施設を目指します。

地域住民が日常的に学校に足を運ぶことができるようにし、合同防災活動を行うなど学校や行政と連携を高め、共助の備えを整えることで非常時に施設をスムーズに避難所として利用できるようになります。そのためにも防犯対策を徹底し、みんなが使い馴染める開かれた施設を目指します。

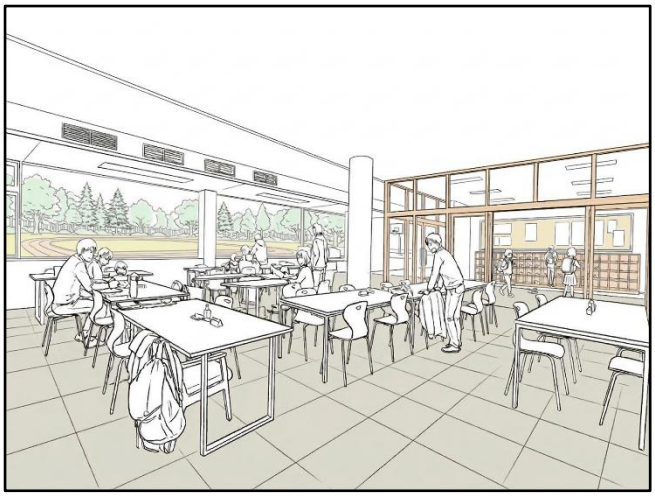
イメージスケッチ



津波災害時に活用できる屋上テラス
屋上で一時的な避難ができるように備える



スムーズに屋上避難ができる校舎
避難者が速やかに校庭等から直接階段で屋上に登れる



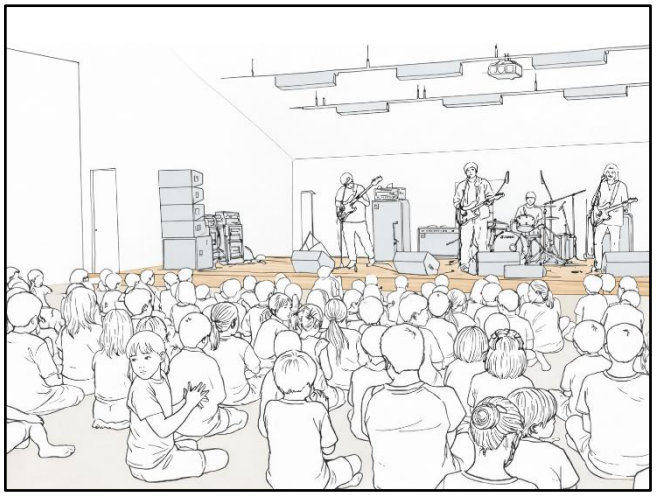
玄関やアプローチの様子が見える職員室
子どもたちの登下校の様子や校庭の様子が見え、何かあった際に直ぐに外に出られる

（５）**<u>継承と創造</u>　一小の自然や鎌倉の文化遺産、人材を活かし、新しい文化を創造する活動拠点**

鎌倉が誇る自然と文化遺産、それぞれに携わる人たちとともに共同して学びを生み出していくことが重要です。鎌倉ならでは、第一小学校ならではの教育資源は子どもたちの学びを豊かにし、出会いや発見が生まれる機会となる力を備えています。こうした教育資源を最大限活かし、遺産を継承し、新たな文化が生み出される活動拠点を目指します。

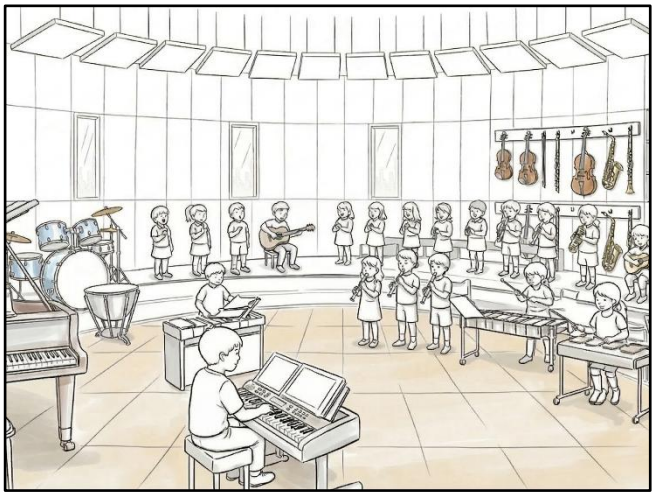
特別教室を地域の人たちの文化的活動の場として、大人の作品や表現に直接触れることで子どもたちの創作意欲が湧きます。表現活動の場、作品発表の場として整えます。

イメージスケッチ

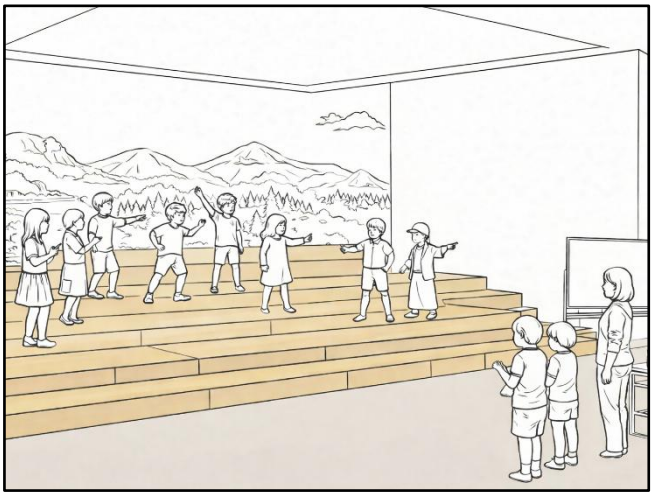


シアターになる小アリーナ
小アリーナに音楽室を組み合わせたシアターは表現の場となる

身近な自然に触れられ、体験的に学べる自然園
昆虫採集したり、木の実を取ったりして、それらを観察・分析し、概念的理解につなげる



音楽の世界に浸れる音楽室
心地良く音が響く環境が整い、気持ち良く演奏できる



自分たちの表現を生み出す舞台
さまざまな演目に工夫して取り組み演じることができる

※イメージスケッチは生成 AI で作成しています。

6　複合化の検討

第一小学校に隣接している施設として鎌倉体育館とかまくらっ子だいいちがあります。いずれの施設も子どもたちや地域の人たちが利用する施設であることから、複合化により地域に開かれた学校とするため、それぞれの施設や機能のあり方等についても十分検討する必要があります。現在、本市の公共施設全体に係る計画となる鎌倉市公共施設再編計画が令和８年度（2026 年度）中の改訂に向けた見直しを行っていることから、複合化については改訂の内容と整合を取りながら基本計画の中で検討していきます。

鎌倉体育館

かまくらっ子だいいち

7　基本計画の検討課題

基本計画では基本構想で定めた「第一小学校づくりのビジョンとコンセプト」を具体化するための施設計画を立案します。計画の立案にあたり、津波発生時の避難場所として安全に避難できる施設として整備することや複合化に関する検討状況を前提とした上で、今後の基本計画における主な検討課題を示します。

（1）所要室・面積構成

学校規模や複合化する機能等をふまえて計画面積を定め、その面積の使い方を具体的に所要室・面積構成として検討します。

検討を通して各室・スペースのあり方や関連諸室のまとまり、諸室の関係性、学校施設と複合機能の連携などについて考え方を整理します。

（2）配置計画

校地条件を踏まえて校舎等の配置計画を検討します。既存樹木や緑地、周辺環境との関係性、立地環境、建替え手順などを考慮し、建物の配置や規模、校庭、アプローチ等について比較検討します。

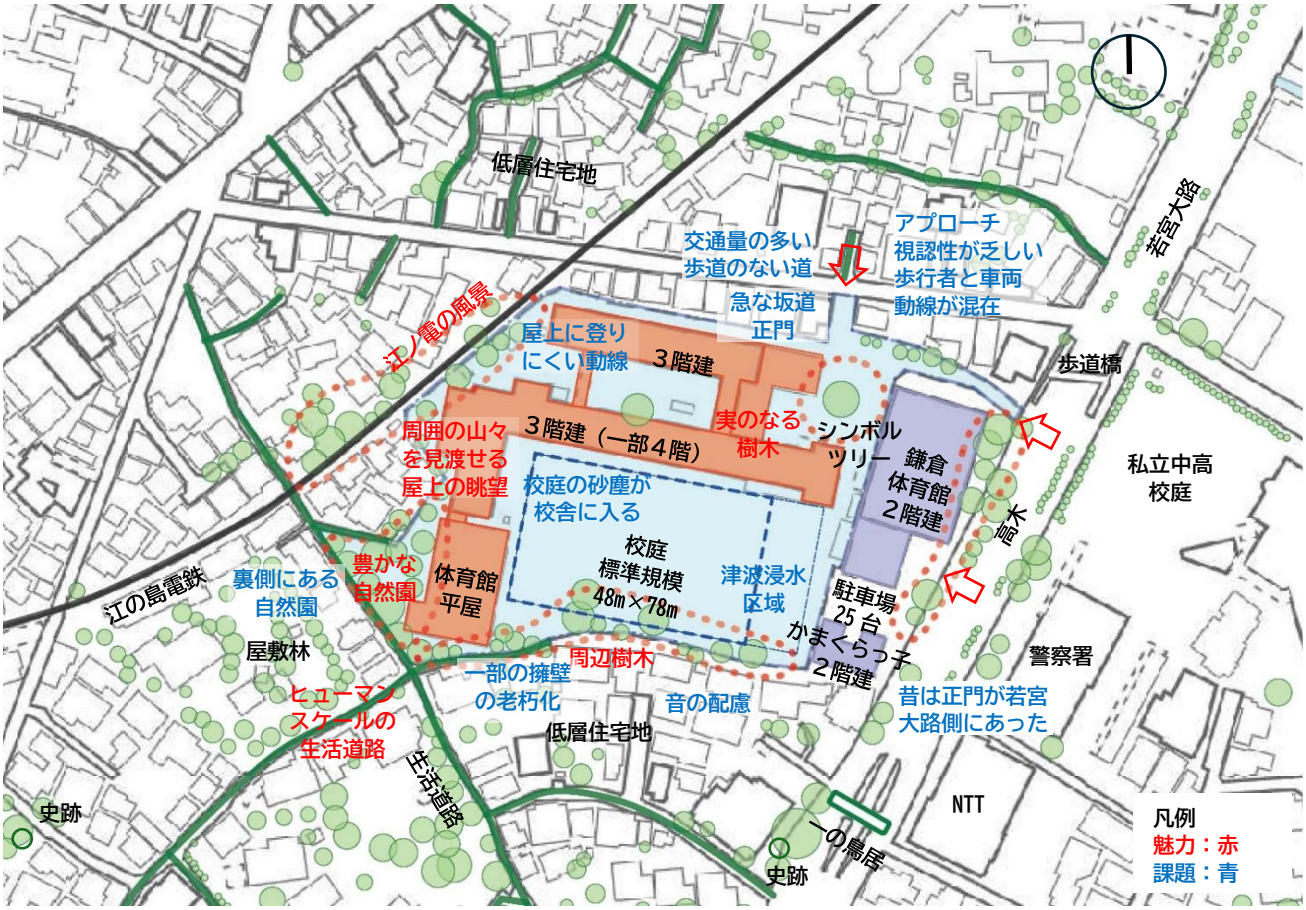


図. 校舎配置の評価

（３）建替え計画

現校舎の位置に新校舎・体育館を建てる場合は、仮設校舎を建てた上で現校舎を解体することになります。その間の教育環境や防災機能、仮設校舎に掛かる建設コストや工期を総合的に比較検討します。

（４）平面計画

眺望や採光、方位、通風、住宅地への配慮などについて考慮しながら、教室や学校図書館、特別教室、体育館、管理諸室等の平面構成を検討します。

管理諸室からの視認性を考慮したアプローチ、校庭と校舎の接続、避難施設の機能的ゾーニングなどについても課題とします。

（５）課題別の計画方針

ICT 環境や避難施設、エコスクール、SDGs、学校施設の地域開放のあり方などについて計画方針を検討します。

（６）事業予算計画

上記（１）から（５）における検討課題を総合的に評価しながら、近年の物価上昇等の社会情勢を考慮し、効率的な工法の選定や施設規模の適正化、国庫補助金の活用などにより、最適な事業予算計画を検討します。

（７）スケジュール（案）

令和８年度（2026 年度）に基本計画を策定し、令和９年度（2027 年度）から設計に着手する予定です。工事期間については２年程度を想定していますが、建替え計画によって変わる可能性があります。

基本計画段階の検討を通して、具体的に事業スケジュールを固めていきます。

	令和７年度	令和8年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
基本構想の策定	←→					
基本計画の策定		←→				
基本設計			←→			
実施設計				←→		
工事					←→	←→

参考　意見要望の整理

基本構想策定に際して、利用者の意見を集めるために自由参加のワークショップ「第一小みらい会議」を３回実施しました。また学校現場の意見を把握するために、第一小学校の教職員ヒアリングを行いました。市内の学校づくりをサポートする学びみらい課、教育指導課の担当者の方々にもヒアリングを行っています。

多岐にわたる意見が上がりましたが、ここでは「第一小学校づくりのビジョンとコンセプト」に関連する意見の傾向を整理します。ワークショップやヒアリングを通して得られた施設内容や運営に関する具体的な意見は、今後の基本計画、設計段階における参考意見とします。

１　第一小みらい会議

（１）「体験」と「ワクワク」

・教科書だけでなく、「体験」を重視して、大人になっても記憶に残るような五感を使って学ぶことが大切で、ワクワクするカリキュラム編成を求める。

・また自由にプレゼンテーションできたり、算数でグループ学習したり、子どもたちが熱中して活動できる環境が大切。

・自分に合った学び方が選べて、それぞれの学びが同じ空間・同じ場所でお互いの様子を感じながらできるとよい。

・参加した子どもからは、教科書やノートの iPad 化を進めたり、担任の先生だけでなく多様な先生から教えてもらえたりすることができるとよいという意見があった。

（２）多様なつながり

・学年やクラスの枠をこえて混ざり合い、縦のつながりの中で刺激を受け合えるようにしたい。

・観光地を活かした国際交流や隣接するかまくらっ子との連携など、地の利を活かした教育や放課後活動の充実を求めたい。

（３）「のびのび」過ごせる、「ゆっくり」休める居場所

・休み時間（遊びの時間）を長くして、「のびのび」「ダラダラ」できる時間も認めるなど、自分らしさを大切にできる生活環境にしてほしい。

・学校らしくない「ホッとできる場所」を校内各所に用意したい。

・図書室やカフェテリアを悩み相談の場所としたり「心のゆとり」を生む空間としたりして活用したい。毎日忙しい先生も休める場所が必要だ。

（４）「まち」の中の学校

・子ども食堂や未就学児が遊びに来られるスペースを設け、多世代が暮らす「まち」のような場所にしてはどうか。

・地域住民や卒業生（OB・OG）が気軽に立ち寄れる「まちのリビング」のような場所、多世代がふれ合える場があるとよい。

・「ウェルカムスペース」を設け、地域の専門家や仕事を持つ人々との交流を通じて社会とつながるようにしたい。

・セキュリティを確保しつつ、地域に開放された「生涯学習センター」や「観光拠点」としての機能も持たせたい。

（５）「鎌倉らしい」学び

・海、山、江ノ電、寺社、松林などの鎌倉らしい豊かな景観や歴史などの資源を学びや学校生活に取り入れたい、郷土愛を育みたい。

・釣り、能、座禅、畑、漁師の仕事など、鎌倉ならではの文化・芸術・産業に触れるカリキュラムを充実させてほしい。

・鎌倉で活躍する文化人や芸術家の資料を展示し情報発信する場所にしたい。

（６）地域主体の運営

・鎌倉体育館やかまくらっ子だいいち、自治会などと連携し、地域全体で子どもを育てる体制を築いていきたい。

・卒業した子どもも「戻ってきたい」、子どもが卒業した保護者も「関わりつづけたい」と思えるような学校づくりを目指したい。

（７） 津波・大規模災害への備え

・津波避難ビルとして、屋上を積極的に活用し、外部階段や広い階段、バリアフリーなスロープなど、誰もが迅速に避難しやすい構造にする、観光客や遠くへ行くのが難しい高齢者も受け入れ可能な「津波避難スペース」としたい。

・避難場所を「いざという時だけ」の場所にせず、日頃から地域が利用でき、交流が生まれる空間とする。そして地域の力を借りながら多様な体験ができる「楽しい学校」を目指したい。

・わかりやすい避難経路の整備や避難者が集中した時の対応のあり方も大事とされています。

（８）地域と子どもが共に学ぶ「防災教育」

防災教育活動として次の意見がありました。

・各自治会と協力し、地域全体で子どもの見守りや防災に取り組める体制を構築する。

・炊き出し体験や防災食の試食など、楽しみながら学べるイベントを実施する。

・地域住民も日頃から学べる防災教育の場として学校を開放する。

・逃げ地図づくりなどを通じて地域のことを学び、子どもたちの目線で「大人が気づかない地域の課題」を発見する学びの場とする。

（９）工事中の配慮

・建替え期間中であっても、その時に在籍する児童が「楽しかった」と思える学校生活を保障してほしい。

２　第一小学校教職員

（１）「つながり」と「交流」、「役割」

・学年のまとまりは大事だが、同時に異学年交流、日常的に異学年が出会える環境づくりが大事である。

・先生にとっても同僚とのつながりや学び合い成長できる環境が大切。

・これからは子どもが自ら学び、先生はアドバイザー的な役割になっていく、一方で小学校では学年（発達段階）によって求められる役割とそのための環境が異なる。

（２）「過ごしやすさ」、「居場所」

・子どもたちがのびのび、楽しく、落ち着いて過ごせることが大事とされ、ケガをすることなく、死角のない安全な見守りができる設計にしてほしい。

・フリールームで過ごす児童の中には黒板に緊張する子もいる、ソファがあるなど学校らしくない場所をもうけ、柔軟な発想で多様な子どもへの配慮が必要ではないか。

・学びの多様化学校として開校した由比ガ浜中学校のように、自分の居場所として感じられる環境が大事。木材の温かみも活用できるとよい。

（３）防災拠点

・数時間ではなく、数日間の滞在が可能な備えを行い、地域の防災拠点としての役割を果たしてほしい。

・津波対策として、建物全体の高床化や 700 名以上を収容できる広大な避難用屋上を設置

（４）将来の変化を見越した整備

・今後 100 年使うことを考慮し時代の変化に対応できること、児童数や人口の増減に柔軟に対応できる設計としてほしい。

・また設備の維持コスト（メンテナンス）への配慮が必要。

（５）地域性を考慮したデザイン

・シンプルでありながら、新しさを感じられる建物、「鎌倉らしい」建物としたい。

３　学びみらい課・教育指導課

（１）すべての子どもを対象としたインクルーシブ教育

・不登校児などの特定の対象だけでなく、通常のクラスの子も含め、一人ひとりの違いを前提に学びを設計し、誰もが学べる場所を提供していく。

・例えばペアワークが苦手な子など、多様な特性を持つ子どもたちが安心・安全に学べる環境づくりを重視している。

・今後も特別支援のニーズの伸びが予想されるため、新校舎にも通級指導の場を確保する。

（２）自律的・探究的な学びへの転換

・大人が一方的に「この学習が良い」と指示するのではなく、環境設定や自己決定を重視し、子どもが自発的に学びを深められるようにする必要がある。

・一斉指導を全廃するのではなく、単元の中で「全体」「共同」「個別」の指導を適切に組み合わせ、工夫していくことがポイントとなる。

・現場の先生方と共に考え、探究的な学習の形を作り上げていきたい。

（３）社会人や企業の参画支援

・プロのアーティストと一緒に音楽を作ったり、自分のライフプランをデザインしたりする学びの実践をサポートしている。

（４）　ハードとソフトの一体的なデザイン

・新しい校舎の空間（ハード面）を考えるプロセスそのものを、先生方が「授業や学びをどうデザインするか」を問い直す機会としたい。

鎌倉市立第一小学校改築工事基本構想

令和８年（2026 年）３月
鎌倉市教育委員会
教育文化財部学校施設課

〒248-8686 鎌倉市御成町 18 番 10 号
電話 0467（23）3000 内線 2455・2456